オンリーワンのお菓子

「独創的なお菓子を」

福島の渡部さん、北農生指導

名護

【名護】福島県南相馬市小高区で洋菓子店「菓詩工房わたなべ」を経営する渡部幸史さん(51)が5月28日、名護市の県立北部農林高校で2年生約40人にお菓子作りを指導した。

ジューシーを混ぜたスコーンや、ハイビスカスの葉を使ったスポンジケーキなど独創的なお菓子を作ってみせ、「固定観念にとらわれず自分だけのオンリーワンを持とう」と伝えた。

「わたなべ」がある小高区は東日本大震災でインフラが破壊され、営業を再開できていない。渡部さんは現在、月島食品工業（東京）の専任講師をしながら復興に取り組んでいる。

小高区は人口1万人の小さな街だが、「わたなべ」は年商1億円以上あった。渡部さんは「人口が少なくても商売が成り立たないわけではない。街の外からも買いに来る商品を作れば、交流人口を増やすことができる」と強調した。

また、「食べる人の気持ちを考えることが一番大事。子どもの誕生日ケーキを依頼された時は、その子の写真を見ながら作っている」と語った。

當山翔一君（2年）は「漠然と食品関係の仕事に就きたいと考えていたが、何のために料理するのかが分かった。きょう学んだことを生かしていきたい」と話した。

生徒たちにお菓子作りを指導する渡部幸史さん（右端）＝5月28日、名護市の県立北部農林高校

（２０１２年６月１４日　２８面）

☆お菓子作りを指導した渡部幸史さんが１番大事と思っていることは？

☆オンリーワンのお菓子として作ったのはどんなお菓子かな？

年　　組　名前